

人間発達学専攻 研究指導内容及び指定受験科目一覧

指導教員

石津 和子

ISHIDU Kazuko

指定受験科目

心理学

研究指導内容 産業・組織心理学、キャリア開発論

1. キャリア教育・キャリア開発に関わるプログラムの開発・効果評価
2. 働く人のメンタルヘルス(ストレス・マネジメント、キャリア発達、ワーク・ライフ・バランス)
3. 青年期・成人期の発達支援

■研究経歴／東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース博士課程単位取得退学。教育学博士。

■所属学会／日本心理学会、日本教育心理学会、日本コミュニティ心理学会、産業・組織心理学会、日本心理臨床学会。

■研究業績／「職場のIT化が会社員の精神的健康へ及ぼす影響」(単著)風間書房。「よくわかる臨床心理学:改定新版」(共著)ミネルヴァ書房。「キャリアカウンセリング」(共訳)誠信書房。

指導教員

北折 充隆

KITAORI Mitsutaka

指定受験科目

心理学

研究指導内容 社会心理学、交通心理学

1. 社会的迷惑行為の心理学的研究
2. 交通行動を規定する要因に関する研究
3. ルールを守る心理、破る心理に関する研究

■研究経歴／名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育心理学専攻博士後期課程修了。博士(教育心理学)。

■所属学会／日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本交通心理学会、法と心理学会。

■研究業績／「違反抑止メッセージが社会規範からの逸脱行動におよぼす影響について -大学構内の自転車の駐輪違反に着目したフィールド実験-」(共著)実験社会心理学研究。「歩行者の信号無視と交差点の認知バイアスとの関連について -主観的評価と推定認知の観点から-」(単著)交通心理学研究。「社会規範からの逸脱行動に関する心理学的研究」(単著)風間書房。「ルールを守る心-逸脱と迷惑の社会心理学」(単著)サイエンス社。

指導教員

三宅 英典

MIYAKE Hidenori

指定受験科目

心理学
教育学・保育学

研究指導内容 心理学、教育学、保育学

乳幼児期の発達について心理学・教育学・保育学の立場から探求する。そのなかでも、乳幼児期における身振りの役割について関心を持つ。

■研究経歴／広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士(心理学)。

■所属学会／日本発達心理学会、心理科学研究会、日本心理学会、日本認知科学会、日本保育学会。

■研究業績／「発話と映像的身振りの統合的理解における指示語発話の効果」(単著)心理科学。「The Effect of Directive Words on Integrated Comprehension of Speech and Iconic Gestures for Actions in Young Children」(共著)Infant and Child Development。「幼児の発話と身振りの統合的理解に及ぼす指示語発話の効果」(共著)発達心理学研究。

指導教員

原田 琢也

HARADA Takuya

指定受験科目

教育学・保育学

研究指導内容 教育社会学・学校教育学

様々な教育現象を社会学的視点から読み解く。中心的なテーマは、誰をも排除しない学校をいかにしてつくるか。人権教育、インクルーシブ教育。

■研究経歴／大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士(人間科学)。

■所属学会／日本教育学会、日本教育社会学会、日本解放社会学会、日本障害学会、日本特別ニーズ教育学会。

■研究業績／「アイデンティティと学力に関する研究」(単著)批評社。「新自由主義的な教育改革と学校文化」(共編著)明石書店。「ディスアビリティ現象の教育学」(共著・共訳)生活書院。「格差をこえる学校づくり」(共著)大阪大学出版会。

指導教員

南 元子

MINAMI Motoko

指定受験科目

教育学・保育学

研究指導内容 幼児教育学、保育実践法

保育現場における身体表現に注目し、環境を通した保育実践法について研究する。また保育の国際的な比較研究を行う。

■研究経歴／金城学院大学大学院博士課程後期人間生活学研究科修了。博士(学術)。

■所属学会／日本家政学会、日本保育学会、日本子ども社会学会。

■研究業績／「近代日本の幼児教育における劇活動の意義と変遷」(単著)あるむ社。「児童文化の歴史 I 児童文化の現象と芸術教育」(共著)港の人。「児童劇・学校劇における岡田文部大臣の訓示・通牒の意味と所謂「学校劇禁止令」(1924)について」(単著)子ども社会研究12号。

指導教員

西村 美佳

NISHIMURA Mika

指定受験科目

教育学・保育学

研究指導内容 幼児教育学、体育学、保育学

子どもをめぐる様々な現代的課題の源流について、文献や歴史資料から探究する。具体的には、子どもの身体や健康、保育・教育・子育てなど、子どもに関わる文化・社会的事象について、文献資料をもとに研究する。

■研究経歴／奈良女子大学大学院人間文化研究科修了。博士(学術)。

■所属学会／教育思想史学会、日本保育学会、日本体育学会。

■研究業績／「汎愛派J.H.カンペの育児論 -若者のための育自論-」(単著)溪水社。

「ヴィヨームの性教育論 -自瀆と子ども-」(単著)アイオーエム。

「快樂消費社会への警鐘 -18世紀汎愛派の健康論を読む-」(単著)叢文社。

「ヴィヨームの走運動における衝動の陶冶」(単著)体育学研究。

人間発達学専攻 研究指導内容及び指定受験科目一覧

指導教員

治田 哲之

HARUTA Tetsuyuki

指定受験科目

心理学
芸術療法学

研究指導内容 心理学

人間というものについて、心理学の立場から探究する。

特に、臨床心理学、発達心理学を中心とし、心理療法や芸術療法の実践から、教育、哲学までの領域を視野に入れる。

■研究経歴／横浜国立大学大学院教育学研究科学校教育専攻学校教育心理学研究専修修了。修士(教育学)。

■所属学会／日本心理学会、日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会。

■研究業績／『生活心理学講座5 ほんとあの私らしさを求めて』(単著)日本通信教育連盟。『心を支える心理学』(共著)八千代出版。『臨床実践の心理学』(共著)日本放送協会学園。

指導教員

渡辺 恭子

WATANABE Kyoko

指定受験科目

芸術療法学
臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法、芸術療法

1. 統合失調症患者を対象とした心理療法の研究
2. 認知症疾患を対象とした心理療法の研究
3. 音楽聴取による心理学的、生理学的変化に関する研究

■研究経歴／名古屋大学大学院教育学研究科発達臨床学専攻博士課程後期課程修了。教育学博士。

■所属学会／日本音楽療法学会、日本芸術療法学会、日本心理臨床学会、日本音楽教育学会、日本集団精神療法学会、日本老年精神医学会。

■研究業績／『老年期の心理査定と心理支援に関する研究』(単著)風間書房。『慢性期統合失調症患者における音楽療法評価表の有用性について』(共著)臨床精神医学。『老年期認知症患者を対象とした音楽療法に関する研究』(単著)風間書房。『音楽療法総論』(単著)風間書房。『芸術と芸術療法』(編著)風間書房。『心理臨床における他職種との連携と協働』(共著)岩崎学術出版社。

指導教員

今村 友木子

IMAMURA Yukiko

指定受験科目

臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法

1. コラージュ療法、描画療法に関する研究
2. 表現技法によるアセスメントに関する研究

■研究経歴／名古屋大学大学院教育学研究科発達臨床学専攻博士課程単位取得満期退学。教育学博士。

■所属学会／日本心理臨床学会、日本芸術療法学会、日本箱庭療法学会、日本コラージュ療法学会。

■研究業績／『仕事としての心理療法』(共著)人文書院、1999。『生きる力をつける教育心理学』(共著)ナカニシヤ出版、2000。『人間援助の諸領域』(共著)ナカニシヤ出版、2001。『コラージュ表現—統合失調症者の特徴を探る』(単著)創元社、2006。『臨床心理査定研究セミナー』(共著)至文堂、2007。『コラージュ療法・材料からの再考』(共著)ナカニシヤ出版、2019。

指導教員

加藤 大樹

KATO Daiiki

指定受験科目

臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法

1. 芸術療法・投影描画法に関する基礎的研究
2. 青年期における心理特性・援助方略に関する研究
3. 子育て支援におけるグループアプローチに関する実践的研究

■研究経歴／名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期課程修了。博士(心理学)。

■所属学会／日本心理学会、日本心理臨床学会、日本芸術療法学会、日本学生相談学会、日本教育心理学会。

■研究業績／『Art Therapy: Programs, Uses and Benefits』(共著)Nova Science Publishers

『心理臨床におけるブロック表現技法入門』(単著)ナカニシヤ出版。『ブロックとコラージュの臨床心理学 体験過程と表現特徴』(単著)ナカニシヤ出版。

『スクールカウンセリングにおける投影描画アセスメント』(共著)ナカニシヤ出版。

指導教員
川瀬 正裕

KAWASE Masahiro

指定受験科目
臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法

1. 発達障害の子どもと家族に対する援助
2. 子どもから思春期の精神発達と臨床心理学的問題の理解と援助
3. 学校、保育園、幼稚園、福祉施設などと心理臨床的活動の連携
4. 発達障がい児への学習支援・教材および教授法の研究

■研究経歴／1981年国際基督教大学大学院教育学研究科教育心理専攻。教育学修士。

■所属学会／日本心理臨床学会、日本児童青年精神医学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本青年期精神療法学会。

■研究業績／『こころとかかわる臨床心理(第3版)』(共著)ナカニシヤ出版。『これからのこころの援助』(共著)ナカニシヤ出版。『医療の中の心理臨床』(共著)新曜社。『統合保育の展開』(共著)コレール社。『21世紀の心理臨床』(共編)ナカニシヤ出版。

指導教員
定松 美幸

SADAMATU Miyuki

指定受験科目
臨床心理学

研究指導内容 精神療法、精神医学

1. 児童期・青年期の精神障害者への援助
2. 全般的精神医学的問題
3. 精神障害の神経学的・生物学的研究

■研究経歴／滋賀医科大学卒業。医学博士。精神保健指定医。

■所属学会／日本生物学的精神医学会、日本でんかん学会、日本神経科学学会、Society for Neuroscience Foreign Member、日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本不安症学会、成人発達障害支援学会。

■研究業績／『心の発達と環境問題』(単著)シナジー。『心的外傷後ストレス障害と社会不安障害』(単著)先端医学社。『症候からみる自閉症スペクトラム』(共著)精神科治療学。

指導教員
仁里 文美

NISATO Fumi

指定受験科目
臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法

1. 深層心理学的な精神力動と、それに関わる臨床心理学的問題の理解と援助
2. 描画法、箱庭療法といった芸術療法に関する研究
3. 乳幼児期から青年期にいたる発達と教育に関する研究

■研究経歴／京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻博士課程満期退学。教育学修士。

■所属学会／日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本芸術療法学会、日本臨床心理身体運動学会。

■研究業績／『箱庭療法の現代的意義』(共著)至文堂。『遊戯療法と子どもの今』(共著)創元社。『心理臨床関係における身体』(共著)創元社。『心理療法の彼岸』(共著)コスモス・ライブラリー。『揺れるたましいの深層—こころとからだの臨床学』(共著)創元社。

指導教員
二村 彩

FUTAMURA Aya

指定受験科目
臨床心理学

研究指導内容 臨床心理学、心理療法、心理検査法

1. 母子保健領域を中心とした福祉領域における支援者に関する研究
2. 保育者による発達支援に関する研究
3. コラーージュ療法に関する研究

■研究経歴／名古屋大学大学院教育学研究科発達臨床学専攻博士課程前期課程修了。教育学修士。

■所属学会／日本心理臨床学会、日本コラーージュ療法学会、日本芸術療法学会。

■研究業績／(論文)「コラーージュ療法の材料に関する検討(1) -基礎的研究の展望-」(共著)、『コラーージュ療法学研究5』2014。
(論文)「コラーージュ療法の材料に関する検討(2) -コラーージュ療法材料シート集の試作と使用感-」(共著)、『コラーージュ療法学研究5』2014。
(論文)「X市の巡回相談における主訴の分類とその傾向」、『金城学院大学心理臨床相談室紀要心理臨床研究14号』2015。

人間発達学専攻 人間生活学研究科前期課程共通科目 授業科目の内容

人間生活学研究法Ⅰ

まず、測定の基本を復習しながら、さまざまな要因(独立変数)の効果は平均値から推定でき、分散を分解することで各要因の関与の程度が推定できることを理解する。さらに、単回帰を復習する。以上のことを基礎に、多変量解析の導入としての重回帰分析と主成分分析を学ぶ。次に、簡単な共分散構造分析を学び、因子分析を共分散構造分析の文脈から理解する。

なお、講義内容については受講生の統計の知識に応じて変更することがある。

人間発達学専攻 発達学分野 授業科目の内容

発達環境学特論Ⅱ(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

この科目では、産業・労働分野の心理的援助について基礎的理論とともに実践についても学習する。働く人のメンタルヘルス、職業性ストレス、職場復帰支援、企業内相談室、外部EAPなどのテーマを取り上げ、担当教員の解説と受講者の発表によって専門的な知識を獲得する。

発達環境学特論Ⅳ

哲学の古き根本問題「人間とは何か」を、哲学的人間学の立場から考察する。現代において、人間が問われている問題状況と、その歴史的・社会的背景について触れ、歴史における人間観、世界観の変遷について言及する。歴史における人間理解の変遷を概観することにより、現代の人間の具体的な問題を考察する力を身につける。

発達環境学特論Ⅹ(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A)

国内で実施された縦断研究の具体例に学びながら、ヒトの発達に関与する生物学的要因(遺伝・成熟)と環境要因(家庭・同朋集団・社会)を研究デザインに組み入れる方法論について修得する。

発達教育学特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践B)

現代学習心理学の基礎と臨床に関して、認知・行動療法という臨床心理学領域からの講義を行う。パワーポイントによる授業を中心に進めていくが、受講者の学修への動機づけを高めるために、ビデオ教材の活用や、臨床に関する具体的な話題の提供に心がけながら授業を展開していく。

発達教育学特論Ⅱ

学校や生涯学習施設のハードとソフトの関係に注目しながら、発達や教育の環境をどのように構築するかという視点から、それらの現状と課題についての情報を収集・分析し、教育・学習活動の計画・実施の内容と方法を学習条件の整備という面から検討する。さらに、注目されるケースや新しい知見を多く取り入れながら、学習環境デザインの可能性を探る。日頃、学習・研究の対象としている教育・学習・発達を、環境的な側面から検討することで視野を広げる。諸研究の成果・知見と実践的な課題の接点についての考察を通して、直面する教育関連問題を打開するための手がかりを得る。

発達教育学特論Ⅲ

本授業では、加藤 弘通・川田 学・伊藤 崇(監訳)『発達心理学 再入門』を担当講読する。初回の授業で分担箇所を決め、毎回、発表担当者が発表資料を作成して分担箇所について発表を行う。これらの発表を通して、発達研究の今日までの営みを理解し、教育と結び付けた議論を行う。

発達教育学特論Ⅳ

本授業では心理療法を軸に取り上げ、発達心理学的知識と心理療法との関連について学ぶ。具体的には、障害児領域・精神科領域・老年期領域・緩和ケア領域を対象としてとらえ、各領域における発達特性や障害特性を分析していく。その中で、各領域における援助目標を明らかにしていく。

発達教育学特論Ⅶ(教育分野に関する理論と支援の展開)

近年の研究成果をふまえて、教育現場で見られる様々な困難を予防し、それに対処する方法を考えていく。主にブリーフセラピー・ブリーフカウンセリング、いじめ解決、ピアメディエーションなどを取り上げる。小グループで相互にカウンセラー役、クライアント役などに分かれたロールプレイを行うなど、ワークショップ型の授業を行う。

発達教育学特論Ⅷ

臨床的観察法や発達診断の方法、発達障害児・者への支援、虐待や子育て支援について、また学校における「いじめ」の問題等、いわゆる「発達臨床」のフィールドにおけるトピックスについて取り扱う。

発達教育学特論Ⅹ(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B)

発達障害臨床について、テキスト、講師の実践、絵本、映画等を通して学び、受講者自身の発達障害児・者との関わりについてディスカッションを通して検討していく。

発達教育学特論Ⅺ

修士論文の制作を念頭に、受講生は、自らの関心や考えを、社会や心理との関わりをなかで深める。さらに、これらを、社会心理学的な思考や研究法をもちいて、論理的かつ魅力的に表現する。前半は、各自、関心のある領域・分野について、基礎的な文献資料やそれについての先行研究を集め、精読する。後半は、これらを踏まえて論点を整理する。そして、企画を立てて、サーベイ調査、関係者への聞き取り、より重要な文献資料の収集などを行う。

発達教育学特論Ⅻ

エーリッヒ・フロム著『人間における自由』を担当講読する。あらかじめ分担箇所を決めておき、毎回、発表担当者が分担箇所について資料を作成し発表する。その発表をもとに、人間と心の健康について、発達の、心理学的、教育学的な観点からの討論とまとめを行う。

発達教育学研究演習Ⅱ(外書講読を含む)

「子どもの発達と教育」に関わる論考を、外書文献を含む基礎文献から選び、その読解を通して現代の子どもに関わる諸問題を考察する。

特別研究

修士論文の指導を行う。担当する指導教員名および研究指導内容については、「研究指導内容及び指定受験科目一覧」を参照してください。

人間発達学専攻 臨床心理学分野 授業科目の内容

臨床心理学特論Ⅰ

さまざまな文献を読むことによって、臨床心理学という学問の考え方やとはどのようなものであるのかについての知識を幅広く身につける。それとともに基礎的な知識としてこれまで学んできたものがどのような臨床の中で生まれてきたのかを知るによって、より臨床とその理論のつながりを深く知ることを目的とする。

臨床心理学特論Ⅱ

心理学的研究および臨床心理学的研究のプランニングやアプローチについて理解を深める。現場での臨床心理的援助の準備として、学部生の体験的理解を促進的に見守り、関与のあり方について考察を深める。

臨床心理学特論Ⅲ

心理面接の基本的な枠組みについて学ぶとともに、治療方針を立てるためのアセスメントについて基本姿勢を学修する。基本的には少人数のゼミナール形式での授業となる。さらに、ロールプレイ等で集団心理面接の実際を学ぶ。

臨床心理学特論Ⅳ

心理療法をどのように行うのかを学ぶとともに、プレイルームや面接室において個別のロールプレイを行う。その詳細を検討することによって、面接に必要な感覚と技術を学び、対人援助の方法を体験的に身につけることを目的とする。

臨床心理学特論Ⅴ(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

後期から始まる心理療法の実践実習に向けて、器質的な要素の強い障碍を持ったクライアントに対する理解を深め、心理療法を実際に行うために必要な知識を学ぶ。

上記の目的に沿って、知識の復習と補充のための講義、また、事例に即しての調査や討論を行う。なお、本科目の内容は前期開講の臨床心理学特論Ⅲとの関連科目である。

臨床心理学特論Ⅵ

1. 包括システムによるロールシャッハ法の実施からスコアリングおよび解釈まで、実際のデータを通して習得する。
2. 子どもの心理アセスメントについて、目的、方法、実施の留意点などを講義し理解を深める。これは、ロールシャッハ法の習得に合わせて同時進行で講義する予定である。

臨床心理学特論Ⅶ

心理療法やプレイセラピーの基礎となる精神分析理論(フロイトからポストクライニアンまで)について概観し、理論と実践について理解を深める。

また、早期乳幼児期の情緒発達理論(クライン・ビオン・ウィニコット・マラー・スターンなど)から、乳幼児の心理や母子関係への理解を深めるとともに、乳幼児期の体験が大人の心に与える影響について事例を通して実践的に学び、理論と実践の融合を図る。

臨床心理学特論Ⅷ(福祉分野に関する理論と支援の展開)

児童福祉施設等を中心とした福祉分野における心理臨床について学ぶ。

子どもの発達やその家族像、問題点について包括的に理解できるよう、座学による基礎知識の習得だけでなく、事例検討などを通して検査結果の解釈や協働する他職種に伝える術も実践的に学ぶ。

臨床心理学特論Ⅸ(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

少年非行、児童虐待といった「司法」が関わる臨床領域において生じる諸問題について知るために、少年院や児童自立支援施設、更生保護施設などの施設で行われている実践や、学校教育場面でおきる「いじめ」や反社会的問題行動に対する指導や支援の実際について紹介しつつ、こうした諸実践における問題について多角的視点、批判的視点にたつてとらえなおす。映像資料や、仮想事例を用いてのケース検討などを通して、現場で「問題」としてあらわれる現象の背景についても想像力を働かせることの重要性について論じる。

臨床心理学特論Ⅹ(心の健康教育に関する理論と実践)

「心の健康教育に関する理論と実践」は、公認心理師の4つの業務の一つ、「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供」に関わるものである。

本授業では、心理の専門家の役割としての心の健康教育の位置づけ、心の健康教育の理論的背景と体系、さまざまな目的に応じた心の健康教育プログラムの実際や現場への導入に関わる問題を取り上げる。

臨床心理学査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)

臨床心理学的アセスメントにおいて必要な実践的知識と技能を習得することを目的とする。特に、実際の臨床場面において使用されることの多い検査について実施・解釈ができるようになることを目指す。

知能検査・人格検査・発達検査など、いくつかの検査について実施や解釈の仕方、テストバッテリーの組み方、フィードバックの仕方などについて総合的に学習する。

臨床心理学査定演習Ⅱ

投映法の代表的な心理検査である「ロールシャッハ法」の歴史と体系、体系間の相違を認識する。実施法、分析法については名古屋大学式技法に沿って学習する。検査の実施、分析、レポート作成を行い、臨床現場で活用するための技術を習得する。また実際の臨床例を通して、理解を深める。

臨床心理基礎実習Ⅰ

心理臨床実践に必要な基礎理論と技法について、実習を通して学修する。

インテーク面接と導入面接における面接技法を取り扱う。その実技技能とともに、一定の書式のもとに記述することができるよう学習する。主にロールプレイを行いながらその記録をもとに、グループスーパービジョン形式で展開するが、健常児童の発達理解と遊戯療法の基礎的学習を目的に、幼稚園実習を行う。

臨床心理基礎実習Ⅱ

臨床心理基礎実習Ⅰに引き続き、臨床心理学実践の技法を学ぶ。

心理臨床相談室での実際の事例を対象として、その記録をもとにグループスーパービジョン形式で展開する。

心理実践実習Ⅰ

公認心理師に求められる実践的知識とそれぞれの領域での課題について複数の現場における実習体験を通して理解を深める。

臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)および臨床心理実習Ⅱ

大学に付置されている「心理臨床相談室」に来談するクライアントに実際に面接し、その経過について指導を受ける。さらに、学外に依頼してある医療機関(精神科など)や学校において、週1回、終日の実習を継続的に体験する。これらの機関で体験(患者さんとの関わりや児童・生徒との関わりなど)を授業においてレポートし、討論を行う。

心理実践実習Ⅲ

公認心理師の実習として、「心理臨床相談室」での実践実習と、さらに広い範囲の諸機関における学外での実習を行い、体験(患者さんとの関わりや児童・生徒との関わりなど)を授業においてレポートし、討論を行う。

臨床心理学研究演習(外書講読を含む)

大学院での研究を進めるにあたっての研究法および基礎知識について学ぶ。形式はゼミ形式である。修士論文研究の土台となる情報収集、関連領域の知識と動向の把握、その基礎となる処理論の理解、研究計画の作成などを主たる目標とする。

特別研究

修士論文の指導を行う。担当する指導教員名および研究指導内容については、「研究指導内容及び指定受験科目一覧」を参照してください。